

平成26年度 北小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

7月7日(月)に開催された「北小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、北小学校区では、【防災訓練】【地域の連携】の2つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)



皆さん、ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
一番町町内会	東吉町田町内会	北小学校
中央町2区町内会	交通安全母の会	北小学校 PTA
合同宿舎文教住宅自治会	保健委員会	三島北中学校
文教町2丁目自治会	スポーツ推進員	子ども会連合会
文教町西町内会	体育振興会	学校支援地域本部
大宮町1丁目自治会	民生委員・児童委員	地域包括支援センター三島
大宮町3丁目自治会	芝 J・B・C	地域づくりコーディネーター
加茂川町2区自治会	消防団第3分団	東レ鎧坂子ども会
シャルマンコーポ町内会	消防団第4分団	ひばり子ども会
文教町東岩崎町内会	北幼稚園	
県営壺町田やまがみ団地自治会	北幼稚園 PTA	

※当日参加者 43 名



アンケート：分野ごと最も話したいテーマについて、参加者の希望を伺いました。

【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①地域と小学校の防災協力を進めるためには?・・・13人 ②小・中・高校生のための訓練プログラムを考えよう!・・・9人 ③大学生や单身者にも参加してもらう方法を考えよう!・・・3人 ④要援護者の救助方法を考えよう!・・・16人 ⑤その他・・・1人
地域の連携	①あいさつを交わしあう地域づくりを進めるには?・・・18人 ②地域の助け合いを広げるためには?・・・21人

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。（○：参加者発言 ●：市長発言）

【防災訓練】

今まで	これから
<p>テーマ① 地域と小学校の防災協力を進めるためには？</p>	
<p>○自治会役員として北小防災学習会に参加したが、多くの父兄は自分たちの避難場所を知らなかった。子を持つ親がその程度なので、子どもだって防災意識は、なかなか持てない。</p> <p>○避難所はスペースが限られているので、家が壊れていない場合は、受付ではねられることを知らない親も多かった。そういった周知が今後の課題。</p> <p>○4月に北小の校長として赴任した。昨年度まで「命の教育」ということで、地域の方と一緒に防災に取り組んだことを引き継ぎで聞いている。防災の火を消さないようにという気持ちで4月から頑張っている。</p> <p>○北小PTAでは、子どもを通じて各家庭と町内が連携できるよう心がけながら、活動内容を考えている。</p> <p>○昨年度から小学校ではカードを作り、訓練に参加した子どもには、町内会ではんこを押してもらい取り組みを始めている。</p> <p>○北中学校でも参加証明書を出している。</p> <p>○「ペットボトルで容器を作ってアルファ米を炊いて食べる」、「大声コンテスト」など、子どもや父兄が共同で行なう取り組みをやったことがある。初め参加者は少なかったが、徐々に増えていった。親と子が一緒に防災に関心を持つ、1つの成功例だと思う。</p> <p>○文教町西は小中学生が少ない地区だが、最近参加者が増えつつある。ずっと取り組んできたのが、起震車と防災訓練終了後の懇親会。</p>	<p>○小学校・中学校で、また防災学習会みたいなことがあれば、自治会でも協力するので、ぜひ声をかけて頂きたい。</p> <p>○防災に関しては、小学生は直接お手伝いするというよりも、地域の方や保護者の方と顔見知りになることが一番だと思う。学校でも防災に取り組んでいるが、まだ学校の中だけということがいくつかあるので、その中に保護者に入ってもらい、また地域の方に活動の様子を紹介し、学校へ来て頂いて近所の方を少しでも知ってもらう等、そのような機会をこれから作っていきたいと思っている。</p> <p>○今年は事情があり、防災学習はできなかったが、また違った形で地域の方と子ども達が顔見知りになる機会を作りたい。さらに保護者が地域に興味を持つことで、防災教育、防災に対する意識が高まっていくと考えている。</p> <p>○防災学習会を開催して頂くことは有り難いし、子どもを通して親も参加することで、自治会長の顔がわかれば声をかけやすくなると思う。</p> <p>○実際、小学生だけで参加することは難しいと思うので、保護者の方に連れて行ってもらうことが、地域とのつながりになると思う。</p> <p>○防災は、まず子どもを対象に色々始めて、大人を巻き込むといいと思う。</p> <p>○皆がわいわい話し合える場を2時間ほど作ると、子どもも大人も参加する。そのように何らかのアトラクションを考えていけば、必然的に小中学生の参加が多くなると思う。</p>

今まで	これから
<p>○小中学生を地域の訓練に参加させるためには、市内一斉に訓練をやっていただけないかと思う。例えば、町、市全体が自衛隊の所に集まって、一斉に訓練をしている地域もある。</p>	<p>○日を特定して、それなりに参加できる条件を作った上で訓練を実施してくれれば、大勢が参加し意識も高まると思う。</p> <p>○学校から常に、「どこの地域で訓練があるから、参加するように」と、アピールしてほしい。</p>
<p>テーマ② 小・中・高校生のための訓練プログラムを考えよう！</p>	
<p>○マンションでは、災害があると電気、水、ガス、下水なども止まり、いわゆる高層難民になる。上層階まで水を運んだり、上の階から下まで担架で下ろすことが必要になってくる。</p> <p>○今年、シャルマンコーポでは中・高校生にアンケートを行い、ジュニアレスキュー隊を作ろうとしている。現在、参加者 18 名。ほとんどの中学生が参加してくれた。7/20 の防災訓練がデビュー戦になる。小・中学生は市で色々な対策をしているのでいいのだが、高校生になると参加が非常に少ないのが 1 つの問題点。</p> <p>○小学生が興味を持つのは、段ボールハウス、簡易トイレの展示など。</p> <p>○中学生のプログラムを特別に考える必要はないと思う。第 4 分団は文教町より北側が主な管轄になるが、徳倉・北上小校区の中学生の参加はかなり多い。第 4 分団がやっている日頃の防災訓練の中身をきちんと覚えて、むしろ中学生が率先して一緒にやってくれている。</p> <p>○小学生は何かできるというわけではないが、「防災訓練に参加する」という意識付けがあればいいと思う。</p> <p>○消防団員は別の仕事をしていて、残った時間で訓練し、火災があれば集まり消火活動をしているという大前提を知らない方が多い。地域で 10 年、消防団の活動を繰り返し続けてきた中で、ある程度自治会からも理解を得られるようになったし、消防団はボランティアだと理解してくれる人も出てきた。逆に消防団に自ら率先して入ろうという方も出てきた。</p>	<p>●北小学校区にはマンションが多くある。シャルマンコーポは三島市内のマンションの中で一番防災対策をしている。マンションは、実は災害時一番問題が起きる。各マンションで災害対策を話し合ってもらいたい。</p> <p>○いかにして一番元気のある高校生に、ジュニアレスキュー隊に参加してもらうか、方法を考えている。今後は消防などに協力してもらい、救急救命や防災講座などを経験し、ひとつ上のランク、「三島市の防災士」という形で少しランクをあげていく。そうなれば、高校生になってもある程度防災に関心を持ち、地域の防災訓練に参加すると思う。</p> <p>○「北小学校区の防災士」を作ってもいいのかなと思った。その様な取り組みが市のモデルになっていく。消防団など専門の方の協力を得て、地域の防災士を育成できるといいと思う。</p> <p>○子どもは普段の生活にない物にすごく興味を持つ。防災学習ではアルファ米などの試食もやっていたので、そういうことから始めたらいいのではないかと思う。</p> <p>○自治体によっては事前講習をして、中学生が率先して訓練しているところもある。高校生は難しいと思うが、中学生で参加すれば、高校生、大学生、社会人になり、長く見ればだんだんと参加するようになる。突破口は中学生だと思う。</p> <p>○「防災訓練に参加するのが当たり前だ」と思う子が増えてくれば、自然と参加も増えていくと思う。</p> <p>○地元と一緒に長年やり続けてきた結果、今がある。継続は大変だが、一番重要。「すぐ効果がないからだめだ」ではなくて、長い目で見て、何年もかければ育って行く。</p>

今まで	これから
<ul style="list-style-type: none"> ●三島市内に救急車は4台しかない(人口3万人に1台)。阪神淡路大震災では8m以下の道路は全て通れなかった。 ●消防団の第一義の活動は消火活動。救助活動ではない。三島は大火が心配されるので初期消火が極めて重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大災害の時、救急車到着まで時間がかかると思うので、怪我人がいた場合には、自分たちで救出し、病院まで搬送する必要がある。そういうことを念頭に置いて、どのような訓練をやっていくか、検討してほしい。
テーマ③ 大学生や単身者にも参加してもらおう方法を考えよう！	
<ul style="list-style-type: none"> ○北中の周りを大学生が大勢、登下校している。多くの大学生が近隣に住んでいると思われる。 ○日大運動部が市内の7中学校と一緒に試合をしたり、意見発表会に参加したりと、中学校と日大の交流がかなり深まっている。そんな関係にありながら、この会議に日大の関係者がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学生が何人住んでいるのか、まず把握しないとイケないと思う。いざという時には、大学生ボランティアは力があり、融通がきく。もう少し声かけが必要だと思う。 ○例えば日大の中にもボランティア部があるかもしれない。ここに日大関係者がいれば、もう少し違った発想が出てくると思う。次回、検討してほしい。
テーマ④ 要援護者の救助方法を考えよう！	
<ul style="list-style-type: none"> ○芝本町は町中にあり、災害時は火災が心配されている。自治会が老人世帯の調査をやっていて、今回その結果を老人会(芝 J・B・C)の方に流してくれた。 ○民生委員は市から依頼され、要援護者の聞き取りをして用紙を提出している。 ○シャルマンコーポで高齢者の調査をした時、動けない方がいて、「何かあった場合はマンションの管理人室へ連絡することになっているが、それもできなかった場合どうしたらいいか」と相談があった。民生委員に連絡するよう話したが、それも難しい場合もあると思う。そこまでやる必要はないのかもしれないが、今のところ良い案はない。 ○文教町西はまとまっていて、前会長が熱心な方だったこともあり、それにひきずられるような格好で要援護者の対策について皆で考えている。 ●「黄色いハンカチ」は安否確認の道具。我が家は大丈夫という家は玄関に黄色いハンカチを掲示してくれれば、安否確認が容易になる。 ○要援護者に申し込まない方もいる。理由は「恥ずかしい」「人の世話になりたくない」など。こちらは「助けが必要では？」と思って援護したいのだが、できない場合はどうしたらいいのか。他町内の対応が知りたい。 ○昼間町内に残っているのはお年寄りが多い。現実には昼間何かあった時には、誰も助けにいけない。昼間の対応をどうするかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○老人会もその情報に基づいて、まず調査をした。具体的な要援護者の救助方法については、市などにご指導頂いて、できることを準備していきたいと思っている。 ●要援護者とは、一人暮らしの高齢者と障がいを持っている方。要援護者リストを自主防災会に渡すので、そのリストを基にどうサポートしていくか、これから計画づくりをしてほしい。 ○救助については、各要援護者の担当を決めていて、「黄色いハンカチ」が出ていない時や、いざという時には、担当者が駆け付ける形をとっている。 ●訓練時も訓練に参加できない方が参加意思を示すことに使えるので、訓練から徹底してほしい。大宮町3丁目では活発に行なっている。 ●救助を必要としない人達に関しては、封をしたリストを自主防災会に渡すので、万一の場合は封を開き、安否確認をして、必要があれば救助活動をしてほしい。

今まで	これから
<p>○一人住まいの方が多くなっている。「夜になると寂しい」、「何かあった時に知らせる手段がない」ということなので、もしも倒れた場合、ボタンを押すと回転灯がつくなど、自己負担でもいいので市からそういったものを教えて頂きたい。</p>	<p>○高齢者の非課税世帯には、市の緊急通報システムのサービスがある。苦しくなったらペダントを押す、電話のボタンを押すと消防署に通報が入る。ただ、災害時は電話や電気が使用できるか分からないので、使えるかわからない。</p> <p>○「非課税世帯」というのが問題。払える人と非課税との中間の人が多くいる。</p> <p>○これも地域の課題の一つとして、「皆でできることは何だろう？」と、これから地域で考えていかなければいけないと思う。</p>
<p>テーマ⑤ その他</p>	
<p>○テーマ①～④どれにもあてはまらない為、「その他」にした。</p>	

【地域の連携】

今まで	これから
<p>テーマ① あいさつを交わし合う地域づくりを進めるには？</p>	
<p>○シャルマンコーポでは、楽しい場で顔を合わせて知り合いになろうということで、趣味を活かした同好会「ウォーキングとアウトドアを楽しむ会」を作り、早速6月から活動を始めた。</p> <p>○スポーツ推進員と北小体育振興会では、年間色々な行事を作って参加を募っている。2ヶ月に1回ウォーキングやグラウンドゴルフなど、様々なことをやっているが、参加者が少ない。自治会のアピールが足りないためだと思う。町内で回覧していても、なかなか末端まで伝わらない。</p> <p>○校区の運動会には、昔は6,000～7,000人くらい参加があったが、今は3,000人くらいしか参加がない。子ども会が成り立たなくなってきたので、自治会自体の参加もなくなってきた。本当は子どもがいなくても参加してくれるといいのだが。</p> <p>●徳倉小や北上小学校校区では、スクールガードが登下校時、積極的にあいさつや声をかけている。</p>	<p>○健康目的だけで歩くのではなく、三島には見どころがたくさんあるので、それらを紹介しながら歩いた。意外に歩いているのに知らない場所があり、好評だった。今後も続けていく。</p> <p>○自治会、子ども会、学校、体育振興会&スポーツ推進員が連携をとって、協力していかないと、これから余計、物事が進まなくなっていくと思う。協力していければ、お互いの顔がわかり、あいさつも校区に広がると思う。</p> <p>●継続していくと、中学生や高校生になっても、スクールガードの方へあいさつするようになる。あいさつがきずなづくりの始まりだと思う。</p>
<p>テーマ② 地域の助け合いを広げるためには？</p>	
<p>○合同宿舎文京住宅は、人事異動で来る方は2～3年しかおらず、大半が単身赴任だと思われる。自治会運営自体、ここ数年危ういと感じている。地域の助け合いなどのレベルまでいかない。どうしたらいいか、いいアイデアがあるだろうか。</p>	<p>●まず「校区の運動会に皆で行きませんか」と声をかけてほしい。町内の方が参加するように、声かけをしてほしい。</p> <p>○難しいテーマなので、時間をかけて考えていく必要があると思う。今日は考えるきっかけを頂いたということで、ぜひ各団体持ち帰って考えてみてほしい。</p>

今まで	これから
<p>○防災や地域の連携は、やはり人のつながりが非常に大事だと、今日意見を伺って改めて思った。</p> <p>○横のつながりを持つことが大きいと思う。それにより、どこに誰がいるかわかり、災害時の救助につながっていく。</p> <p>○横のつながりはすぐにはできない。</p> <p>○今年、北幼稚園では園庭の芝生化を行なった。600 平米という広さだが、2,400 本の芝生の苗を保護者、教育委員会、町内の方たちに手伝って頂き、6/6 に植え付けを行なった。225 人の幼児がいるが、自分達がお母さんと一緒に植えた芝生がとても愛おしくて、毎日成長を楽しみにしている。苗のポット、一つ一つがつながり始めたので、「皆と同じように、手をつなぎあって大きな芝生に成長するんだね」という話をしながら、成長を見守っている。</p> <p>●市では学校支援地域本部作りを進めている。教育は、学校と家庭と地域が連携していく方向になっている。</p> <p>●北小は、非行や犯罪が少し多い校区。</p> <p>●市内のいくつかの町内で、コミュニティカフェの活動が進んでいる。</p>	<p>○子ども会も親の事情で入れないという問題があるが、例えば防災という切り口で、子ども会だけではなく、学校や地域を巻き込んでいければ、防災や地域の問題も解決するのかなと思った。</p> <p>○横のつながり、きずなづくりが本当に大事。それをどうやって養っていくのか、皆で考えられたらいいと思った。</p> <p>○まずは顔を合わせ、目的を持って前に進んでいくことで、力を合わせることに繋がっていく。そういうステップで繋がっていけるといい。</p> <p>●北幼稚園はできたばかりの幼稚園なので、安全性の高い園舎だが、南幼稚園は南中学校の近くなので、大災害があった時には中学生が園児をサポートすることになっている。時々、中学生が幼稚園を訪れて交流を行なっている。</p> <p>●学区内には色々な能力を持った方が多くいるので、学校をサポートしていくよう呼びかけてほしい。</p> <p>●安全、安心な地域にするためにも、顔見知りの方は、声をかけあう地域づくりをしてほしい。</p> <p>●東京の杉並区はお屋敷街であり空き巣が非常に多い地区なのだが、道路の一角に花壇を作ったり、各家庭の前に鉢植えを出したりして、きれいな町作りを進めたところ、会話が增え、花を眺める人が増えたおかげで、空き巣が 4 分の 1 に減った。住んでいる人の工夫で犯罪が抑制される。</p> <p>●若松町のコミュニティカフェでは、子どもから大人まで熱心に色々な活動をしている。補助金制度もあるので、活用してほしい。</p>

今後の地域活動の参考にしてください！